

# 新しい 病害虫 Vol.13

本県は栽培される農作物の種類や作型が多様で、発生する病害虫の種類も大変多く、また、同時に野菜・花卉類、それらの種苗などの海外からの輸入や国内での移動が大幅に増加し、それに伴って新たな病害虫の侵入、発生が続いています。これらの新発生病害虫は既存の病害虫との見分け方が難しかったり、効果的な登録農薬がないなど防除に苦慮するケースが多く見られます。

このような、新たに発生した病害虫の防除対策に役立つよう、見分け方や防除法などについて紹介します。

## インパチェンスベと病



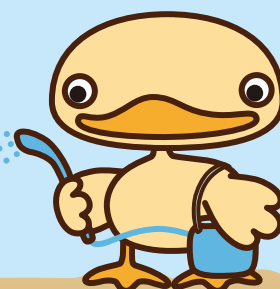
トビイロシワアリ



サツマイモ基腐病



タバコノミハムシ



高知県病害虫防除所

# インパチェンスベと病

*Plasmopara obducens*

令和2年度特殊報第1号

## 発生作物：インパチェンス

### 病徴

葉裏が白いかびに覆われ、葉が黄化する(写真1、2)。病徴が進展すると落葉、枯死に至る。病原菌は葉裏の気孔から分生子柄を伸長して外表に現れ、樹枝状に分岐後、円錐状の先端部に卵形の分生子を形成する(写真3)。

### 防除対策

- (1) 本病は分生子により空気伝染するため、罹病株は速やかにほ場外へ持ち出し、土中に埋没処理する。
- (2) インパチェンスをはじめとするツリフネソウ属を宿主としており、付近に他の宿主がないか注意する。
- (3) 現在のところ、本病を対象とした農薬は登録されていないため、耕種的防除を徹底する。



写真1：葉の黄化症状



写真2：葉裏に生じた白色のかび



写真3：分生子柄と分生子

# トビロシワアリ

*Tetramorium tsushimae* Emery

令和2年度特殊報第2号

## 発生作物：促成ナス

### 形態、生態など

本種は屋久島以北の日本各地に分布しており、西南日本では野外でごく普通にみられる。働きアリの体長は2.5mm前後、体色は褐色から黒褐色で、頭部の表面にはほぼ平行に縦走するしわを有する。また、腹柄は2節あり、前伸腹節後背部には1対のとげ状の突起(前伸腹節刺)を有する(写真4、5)。草地や裸地など開けた環境に生息し、石の下や土中に営巣する。雑食性であり、昆虫、植物の芽や種子、樹液や甘露など幅広く食する。

### 被害

株元に土を盛って営巣し、主に根や地際部の茎を加害してくぼんだ食害痕を形成する(写真6)。激しく食害を受けた株が萎凋、枯死に至る事例も報告されている。また、今回の事例では茎頂部(写真7)および花卉への食害も確認した。

### 前伸腹節刺が1対



写真4：トビロシワアリ（側面）

### 腹柄が2節



写真5：トビロシワアリ（背面）



写真6：地際部の食害



写真7：茎頂部の食害

### 防除対策

現時点で、ナスおよびその他の作物において本種に適用のある農薬はなく、深耕やほ場周辺の除草、灌水で巣を破壊するなど、物理的・耕種的防除に努める。

# サツマイモ基腐病

*Plenodomus destruens* Harter

(syn. *Phomopsis destruens* (Harter) Boerema, Loerakker & Hamers)

令和2年度特殊報第3号

## 発生作物：サツマイモ

### 病徴

- (1) はじめ、地際部の茎が黒～暗褐色に変色し腐敗する。その後、茎の被害部が拡大し、やがて茎葉が萎凋、枯死する（写真8、9）。発病が蒴梗（茎と塊根を繋ぐ部分）を経て塊根まで拡大すると、なり首側から塊根が腐敗する（写真10）。
- (2) 被害株の変色部表層には微小な黒点粒状の分生子殻の形成が認められる（写真11）。分生子には大きさ、形状の異なる二つの型がある。
- (3) 本菌の宿主植物はヒルガオ科植物で、罹病した塊根やつるで伝搬する。また、植物残渣上で越冬し、それが翌年の伝染源となる。

### 防除対策

- (1) 発病した株（つるや塊根）は速やかに抜き取り、ほ場内や周辺に残渣を残さないように処分する。
- (2) 発病株の除去前後には、周辺株への感染予防のため、銅剤（Zボルドーまたはジーファイン水和剤）を複数回散布する。
- (3) 収穫後はほ場から残渣を速やかに除去し、耕耘などを行って、除去しきれなかった残渣の分解を促進する。
- (4) 本病が発生したほ場で使用した資材や機材を別ほ場で使用する場合は、消毒や洗浄を十分に行う。
- (5) 本病が発生したほ場では、次作のサツマイモ栽培を控え、輪作を行う。
- (6) 本病が発生したほ場からは種芋を採取しない。
- (7) 種芋には腐敗や病害、傷のない健全なものを用いる。また、種芋の消毒を行う。
- (8) 苗床の土壤消毒を行う。
- (9) 苗は地際部から5cm以上切り上げて採苗し、採苗当日に苗を消毒する。
- (10) 植付前には、ほ場の排水対策や土壤消毒を行う。



写真8：ほ場での発生状況1

写真9：ほ場での発生状況2



写真10：塊根の腐敗状況



写真11：罹病つる上の分生子殻



# タバコミハムシ

*Epitrix hirtipennis* (Melsheimer)

令和2年度特殊報第4号

## 発生作物：ナス

### 形態、生態など

成虫の体長は1.5～2.5mm、長楕円形でやや扁平であり、密な短刺毛に覆われ、後脚の腿節が顕著に肥大している。体色はやや光沢のある赤褐色で、上翅には不明瞭な黒斑がある（写真12、13）。

ナス科植物を食害し、国内ではこれまでにナス、トマト、ジャガイモ、ホオズキなどへの加害が報告されている。

成虫は刺激を受けると、後脚により大きく跳ねる。卵は地表に産み付けられ、ふ化した幼虫は地中で根を食害した後、地表近くで蛹化する。

原産地（北アメリカ）では、年に4世代を経過し、成虫は落葉下で越冬することが報告されているが、国内での生活史は不明である。



写真12: 成虫（背面）



写真13: 成虫（側面）

### 被害

成虫は葉の表皮を残して食害、もしくは葉を貫通して食害する。このため、直径1～2mm程度の白い斑点状の食害痕や円形の穴が多数観察され（写真14）、葉が生長すると被害痕が円形の大きな穴となる（写真15）。



写真14: 被害葉1



写真15: 被害葉2

### 防除対策

- (1) 現時点で、ナスおよびその他の作物において本種に適用登録のある農薬はない。
- (2) 栽培終了時には、近隣の作物へ本種が移動しないように、蒸し込み処理を行った後に残渣を処分する。



高知県病害虫防除所では、農作物の病害虫や防除対策、また農薬に関する最新情報を提供しています。

**高知県病害虫防除所**

〒783-0023 高知県南国市廿枝 1100  
TEL:088-863-1132 FAX:088-863-7470

TEL:088-863-1132 / FAX:088-863-7470 / E-mail:160506@ken.pref.kochi.lg.jp  
URL : <http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/?sid=2016>

令和3年3月作成